

通級指導教室の役割



広島県廿日市市教育委員会
特別支援教育アドバイザー

山田 充

やまだ みつる 堺市で通級指導教室の教員を20年していました。通級を核とした特別支援教育の校内支援システムで、博報賞特別支援教育部門を受賞。現在は、廿日市市教育委員会の特別支援教育アドバイザー。

通級指導教室は「うまくいかない原因に対応する」

ご存知のことかとは思いますが、通級指導教室は、学習の補充をするところではないことを、最初に確認しておきます。一般的に「個別の指導を行う」のイメージは「遅れている学習の補充を行う」ですが、通級指導教室に関しては、この

考え方は誤りといえるでしょう。通級指導教室は週に一、二時間程度です。子どもたちは週に二〇時間以上、通常の学級で学んでいます。これだけの時間をかけて学んでいることが遅れているとして、それが週に一、二時間で補充できるわけがありません。

その一、二時間で学んだことになつた成果がないわけではないものの、時間をとっているのに決して追いつかない状態が続くことで、子どもたちはどんな気持ちになるでしょうか。この状態では、いつも遅れている自分を自覚することになり、どんな子どものモチベーションが下がっていくでしょう。

文部科学省も「通級による指導は、障害の状態に応じた特別の指導（自立活動の指導等）を特別の指導の場（通級指導教室）で行うことから、通常の学級の教育課程に加え、又はその一部に替えた特

別の教育課程を編成することができる」（文部科学省ホームページ「特別支援教育について」5. 特別支援教育に関する学習指導要領等）と述べています。

つまり通級指導教室の重点は、学習の補充ではなく、特別な指導として、自立活動を行っていくこととなっているのです。それは、学習活動上、または生活上の障害による困難の改善・克服を目的としています。言い換えると「うまくいかない原因に対応する」のです。

子どもたちの学ぶ場は通常の学級

通級指導教室と通常の学級との関係を考えてみましょう。まず大前提として、通級による指導を受ける子どもたちは、通常の学級在籍だということです。つまり、子どもたちの学ぶ場所はあくまでも通常の学級なのです。

しかし、その子たちは、集団での行動に困難があったり、コミュニケーションが苦手だったりして、通常の学級で学ぶことが難しく、他の子どもたちと同じよ

うに学習などで成果を上げることができません。そのために、通級による指導を受けることになっていくわけです。

つまり、通常の学級でみんなと同じように学ぶために、通級指導教室は存在するのです。

通級指導教室で行うアセスメント

上記のことから、

- ・通常の学級で学べるようになる
- ・通常の学級でみんなと同じように生活することができる

などが子どもたちの課題になります。

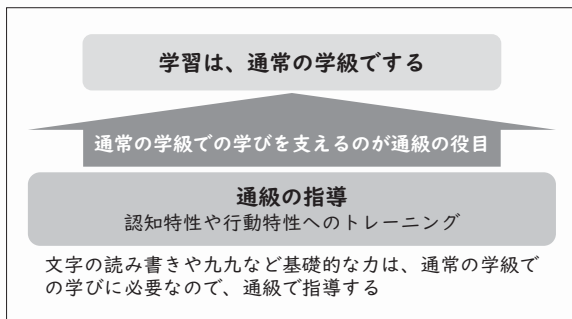
その課題設定のために必要となるのは、「なぜ学べないのか」「なぜうまくコミュニケーションがとれないのか」といったそれぞれの困難が起こる原因を探らねばならないということです。これが「アセスメント」です。

通級指導教室では、指導の対象となる子どもの困難に対してアセスメントを実施し、子どもも持っている困難の要因を明らかにすることが最優先課題です。

通級指導教室での指導は トレーニングが中心

前述のような子どもの抱えている困難を改善、軽減、あるいは代替するための能力の向上をめざして、指導の計画を立案することが求められています。通常の学級で学ぶための力を通級による指導で身につけ、その力を使って通常の学級で学ぶという構図になります（図参照）。で

図 通級指導教室と通常の学級との関係



すから、通級による指導は、認知特性や行動特性へのトレーニングが中心となるわけです。

ただし、ひらがなの習得が難しいなど読み書きに困難がある場合や、九九の習得ができていない場合など、そのことで通常の学級での授業についていくことができなくなっているような場合は、通級による指導で、読み書きや九九の習得は最優先課題となります。

通常の学級在籍の通級指導を受けている子どもたちの主たる学びの場は通常の学級であり、通級指導教室は、学びに必要なさまざまな能力についてトレーニングをする場だということを繰り返し意識していく必要があります。

*

連載の初回にあたり、通級指導教室とは何かということを書かせていただきました。位置づけと、どんなことをするのかという役割を最初に押さえておきたいと思えます。次回からは、通常の学級と通級指導教室との関連性について、詳しく述べていきます。